

平成29年9月8日

平成29年夏期における山岳遭難の概況

警察庁生活安全局地域課

1 概要

(1) 全国の発生状況

平成29年夏期(7～8月の2か月間をいう。以下同じ。)における山岳遭難は

○ 発生件数 611件 (前年対比 -49件)

○ 遭難者 705人 (前年対比 -48人)

うち死者・行方不明者

68人 (前年対比 +20人)

である。

過去5年間の夏期における山岳遭難発生状況をみると、今年は、統計の残る昭和43年以降で発生件数が最も多かった平成28年よりは発生件数、遭難者数ともに減少したものの、3年連続で発生件数が600件を超え、遭難者数が700人を超えており、高止まりの状態にあるといえる。

(2) 都道府県別の発生状況

山岳遭難の発生件数を都道府県別にみると、最も多いのが長野県101件、次いで静岡県69件、富山県53件であった。

2 特徴

(1) 目的別・態様別

遭難者705人について、目的別にみると、登山(ハイキング、スキー登山、沢登り、岩登りを含む。)が577人(81.8%)と最も多く、次いで観光61人(8.7%)が多い。

態様別にみると、道迷いが189人(26.8%)と最も多く、次いで転倒が168人(23.8%)、滑落が102人(14.5%)となっている。

(2) 年齢層別

遭難者705人のうち、40歳以上が559人(79.3%)、60歳以上が362人(51.3%)となっている。

死者・行方不明者68人のうち、40歳以上が63人(92.6%)、60歳以上が50人(73.5%)となっている。

3 山岳遭難防止対策

山岳遭難の多くは、天候に関する不適切な判断や、不十分な装備で体力的に無理な計画を立てるなど、知識・経験・体力の不足等が原因で発生していることから、遭難を防ぐためには、以下のような点に留意する必要がある。

○ 登山計画の作成

気象条件、体力、体調、登山の経験等に見合った山を選択し、登山コース、日程、十分な装備、食料等に配慮し、余裕のある安全な登山計画を立てる。

計画を立てるときは、滑落等の危険箇所を事前に把握する。

単独登山はできるだけ避け、信頼できるリーダーを中心とした複数人による登山に努める。

○ 登山計画書の提出

作成した登山計画書は、家庭や職場、登山口の登山届ポストなどに提出しておく。

○ 道迷い防止

地図、コンパス等を有効に活用して、常に、自分の位置を確認するよう心掛ける。

○ 滑落・転落防止

滑りにくい登山靴、ストック等の装備を有効に使用するとともに、気を緩めることなく常に慎重な行動を心掛ける。

○ 的確な状況判断

視界不良・体調不良時等には、道迷い、滑落等のおそれがあることから、状況を的確に判断して早めに登山を中止するよう努める。

注：％は、小数点以下第2位を四捨五入（表1～5においても同じ。そのため、合計の数字と内訳の計が一致しない場合がある。）。

表1 概要

(夏期)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	
						構成比
発生件数(件)	569	583	647	660	611	
遭難者数(人)	625	699	782	753	705	100.0%
死者・行方不明者	55	52	65	48	68	9.6%
死者	51	48	61	45	56	7.9%
行方不明者	4	4	4	3	12	1.7%
負傷者	305	310	342	357	330	46.8%
無事救出者	265	337	375	348	307	43.5%

注:夏期とは、7～8月の2か月間をいう(以下同じ)。

発生件数等の推移

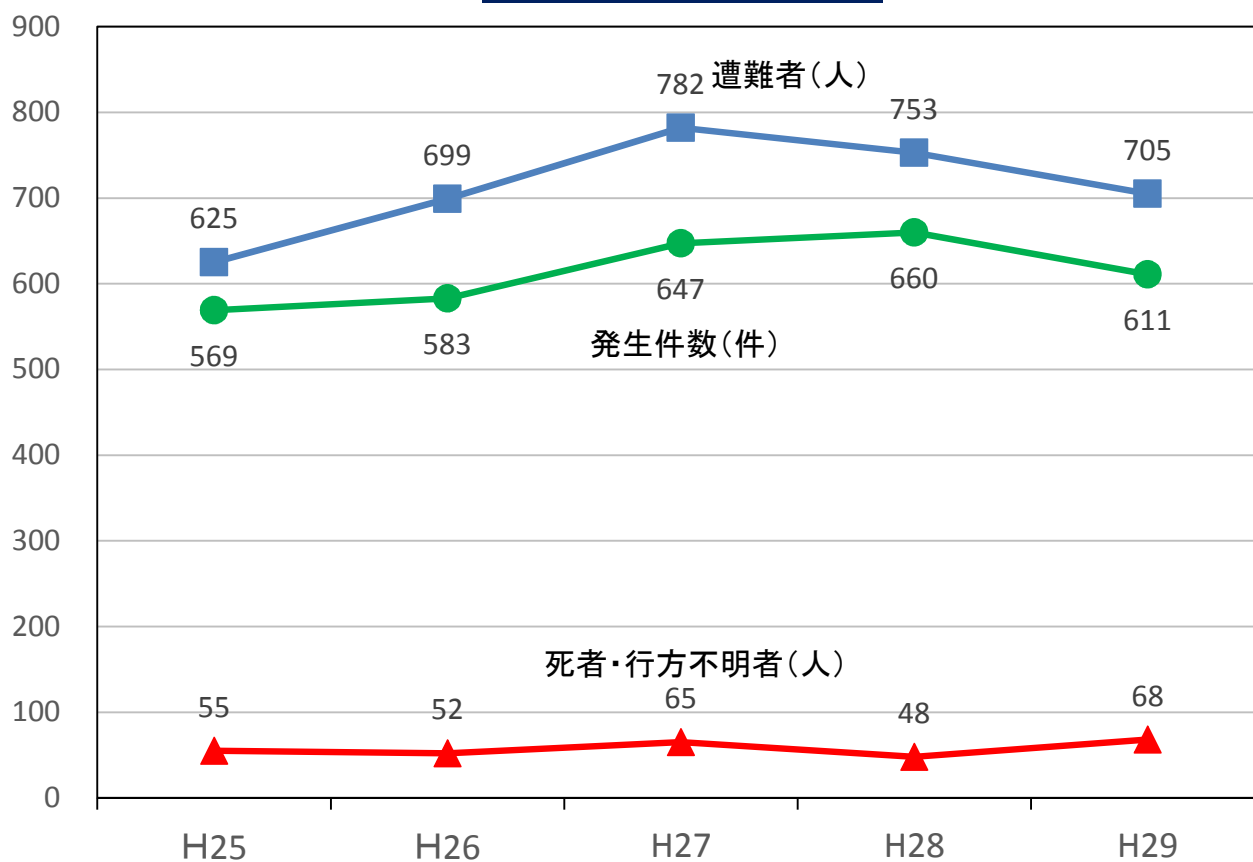


表2 都道府県別山岳遭難発生状況

(平成29年夏期)

都道府県	発生件数 (件)	遭 難 者 数 (人)				
		死者	行方不明者	負傷者	無事救出	
北海道	37	44	4		23	17
青森県	5	6	1		1	4
岩手県	12	13	2		6	5
宮城県	2	3				3
秋田県	2	2			2	
山形県	12	12		1	9	2
福島県	13	13	2		7	4
東京都	18	25			9	16
茨城県	2	3			1	2
栃木県	7	7	1	2	3	1
群馬県	27	28	2	1	19	6
埼玉県	15	17	4	1	8	4
千葉県	3	7	1			6
神奈川県	21	25	1		7	17
新潟県	17	18	2	1	7	8
山梨県	48	49	6	1	32	10
長野県	101	108	17	1	57	33
静岡県	69	73	1	1	31	40
富山県	53	58	3	3	26	26
石川県	9	10	1		6	3
福井県	3	3			3	
岐阜県	26	31	2		15	14
愛知県	2	3			1	2
三重県	10	12			2	10
滋賀県	13	17	1		11	5
京都府	13	15	1		8	6
大阪府	4	4				4
兵庫県	13	18	1		7	10
奈良県	6	6	2		3	1
和歌山県	1	1			1	
鳥取県	5	5			3	2
島根県						
岡山県						
広島県						
山口県						
徳島県	3	23			2	21
香川県	1	1				1
愛媛県	12	12			6	6
高知県						
福岡県	8	9			4	5
佐賀県						
長崎県						
熊本県						
大分県	5	10			3	7
宮崎県	5	5	1		2	2
鹿児島県	8	9			5	4
沖縄県						
合計	611	705	56	12	330	307

表3 目的別山岳遭難者

(夏期)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
登山	470	572	662	610	577	81.8%
登山	432	526	625	559	527	74.8%
ハイキング	14	24	9	21	26	3.7%
スキー登山		1	1			0.0%
沢登り	12	16	18	22	18	2.6%
岩登り	12	5	9	8	6	0.9%
山菜・茸採り	9	10	25	10	16	2.3%
その他	146	117	95	133	112	15.9%
観光	91	66	63	83	61	8.7%
作業	24	13	6	13	11	1.6%
溪流釣り	8	8	7	12	12	1.7%
写真撮影	4	5	4	1	1	0.1%
自然観賞	1		1	3	1	0.1%
山岳信仰	4	5	2	4	10	1.4%
狩猟					1	0.1%
スキー						0.0%
その他	13	20	9	17	13	1.8%
不明	1		3		2	0.3%
合計	625	699	782	753	705	100.0%

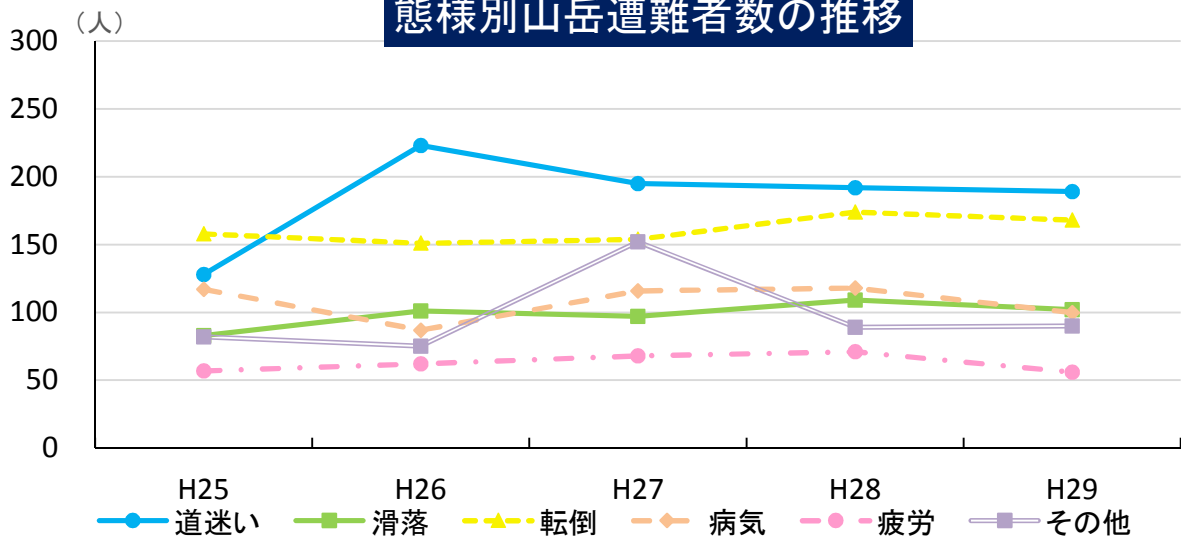
注：平成28年に「その他」から「スキー」を分離。

表4 態様別山岳遭難者

(夏期)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
道 迷 い	128	223	195	192	189	26.8%
滑 落	83	101	97	109	102	14.5%
転 倒	158	151	154	174	168	23.8%
病 気	117	87	116	118	100	14.2%
疲 労	57	62	68	71	56	7.9%
そ の 他	82	75	152	89	90	12.8%
転 落	24	15	26	24	18	2.6%
悪 天 候	14	7	9		3	0.4%
野生動物襲撃	8	9	14	7	6	0.9%
落 石	5	7	8	5	11	1.6%
雪 崩						0.0%
落 雷	2		1			0.0%
鉄 砲 水	3		34	1		0.0%
有 毒 ガ ス						0.0%
そ の 他	21	28	52	45	33	4.7%
不 明	5	9	8	7	19	2.7%
合 計	625	699	782	753	705	100.0%

態様別山岳遭難者数の推移



態様別山岳遭難者構成比の推移

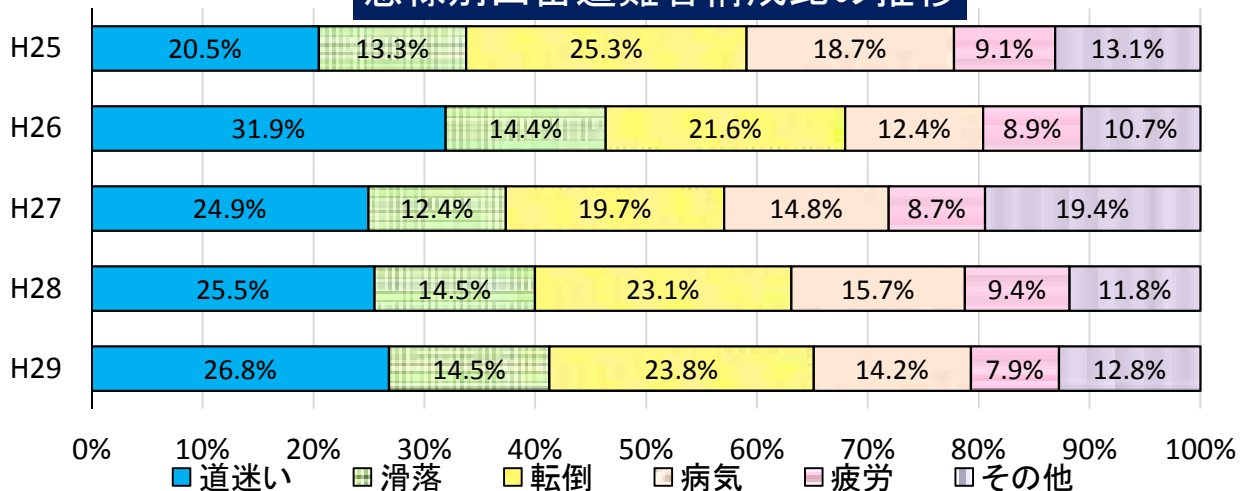
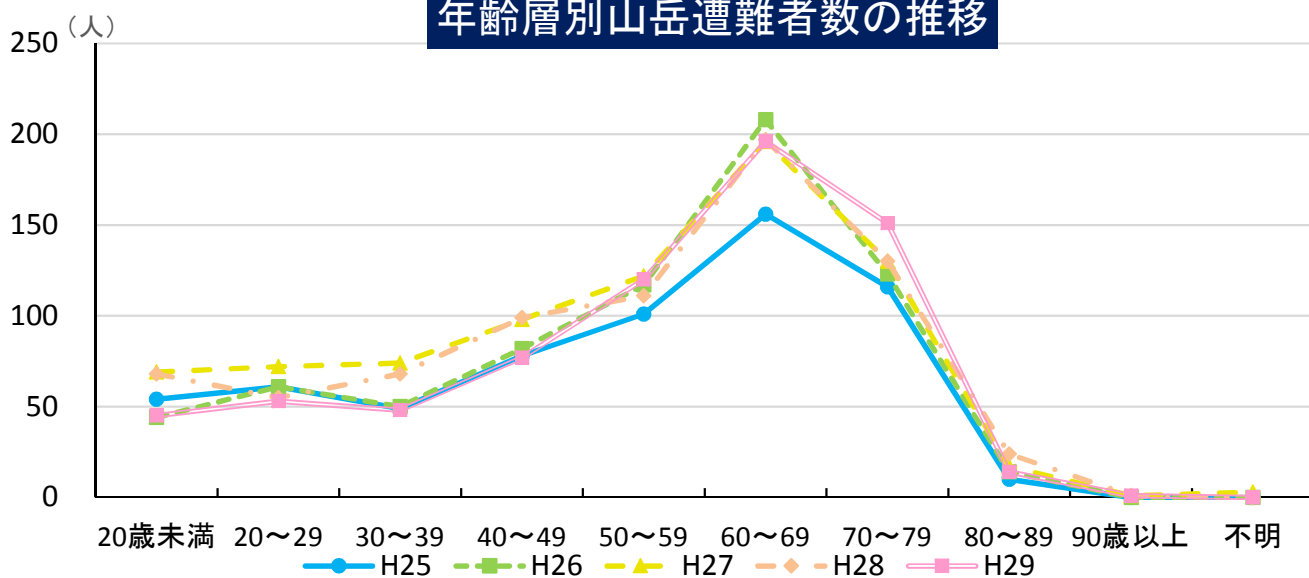


表5 年齢層別山岳遭難者

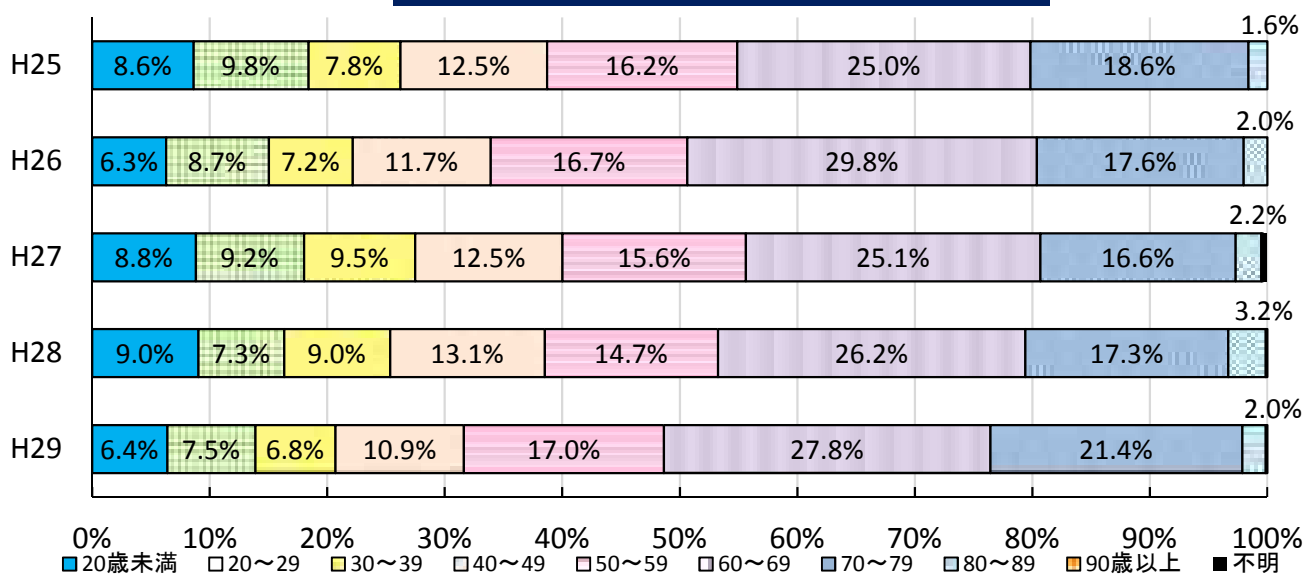
(夏期)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
20歳未満	54	44	69	68	45	6.4%
20～29	61	61	72	55	53	7.5%
30～39	49	50	74	68	48	6.8%
40～49	78	82	98	99	77	10.9%
50～59	101	117	122	111	120	17.0%
60～69	156	208	196	197	196	27.8%
70～79	116	123	130	130	151	21.4%
80～89	10	14	17	24	14	2.0%
90歳以上			1	1	1	0.1%
不明			3			0.0%
合計	625	699	782	753	705	100.0%

年齢層別山岳遭難者数の推移



年齢層別山岳遭難者構成比の推移



【参考】平成29年夏期における山岳遭難者(死者・行方不明者)～68人

(内訳:20歳未満1人 20代1人 30代3人 40代5人 50代8人 60代31人 70代18人 80歳代1人)